

II-C-O-97

抗BrdU抗体を用いたflowcytometryと免疫組織化学による頭頸部腫瘍の細胞周期の解析

熊澤博文、崔信一、喜多純、和田安弘、山崎典子、堀芳朗、山下敏夫、熊澤忠躬、河本圭司*

(関西医科大学・耳鼻咽喉科
関西医科大学・脳神経外科*)

頭頸部腫瘍において、臨床上抗癌剤による細胞増殖動態の変化の推測や、悪性度を判定するためのS期に取り込まれるBrdUに対する抗BrdU抗体を用いて検討されその有用性が示唆されている。抗BrdU抗体陽性細胞数を客観的に把握可能なflowcytometryに対して固形腫瘍内での抗BrdU抗体陽性細胞の部位同定には免疫組織染色にゆだねる必要がある。しかしながら、頭頸部腫瘍において抗BrdU抗体を用いてflowcytometryと免疫組織染色とを比較検討された報告は少ない。今回我々はin vitroにおける単一KB細胞(口腔腫瘍細胞株)の免疫組織染色法(PAP、ABC法)とflowcytometryによる検出性を比較し、さらにcisplatin投与における細胞動態の変化を比較した。

II-C-O-98

頭頸部腫瘍におけるケラチンを用いた免疫組織染色とFCMによる癌細胞検出の試み

山崎典子、熊澤博文、堀芳朗、喜多純、崔信一、山下敏夫、熊澤忠躬、河本圭司*

(関西医科大学・耳鼻咽喉科
関西医科大学・脳神経外科*)

私たちは、腫瘍細胞ばかりでなくfibroblastや浸潤リンパ球を含んだ頭頸部腫瘍にケラチンを用いて腫瘍細胞のみを選択的に染色させ、免疫組織染色で光顕的に確認し、フローサイトメトリー(FCM)によりケラチン陽性細胞の検出を試みた。

(方法) KB株化細胞及び頭頸部腫瘍例は、コラゲナーゼ液中で細切し、エタノールで固定、抗ケラチン抗体で反応させ、FITC標識し、更にpropidium iodideの二重染色し、FACS tarで測定した。又、同じ切片で免疫染色を行った。

(結果) ①ケラチンを用いて、KB細胞及び組織中の腫瘍細胞を選択的に染色し得た。

②FCMにより、ケラチン陽性細胞のみをgatingすることにより癌細胞を検出でき、正確なDNA-histogramが得られた。

(結語) 本法はケラチンを用いて、FCMにより癌細胞を選択的に検出でき、cell kineticsの検索に有用であった。